

主張

【攻めのリハビリを宇和島で／どうする宇和島の介護】

日本全体のお話としては、団塊の世代が75才以上になる2025年問題であるとか、高齢者数がピークになる2040年危機とか言われているのですが、宇和島は、高齢化という点でも支え手不足という点でも、既に危機的な状況を迎えていると言えます。現在の宇和島市の人口構成は、全国平均の何年後の姿かとお尋ねすると、35年後の姿だと言います。※1

宇和島が、既に、全国でもトップレベルの高齢化先進地であることを市民の皆さんと共有(共通した危機意識を持って)して主張をしたいと思えます。

言うまでもなく、高齢化率の増大は、医療費や介護費等(加えて、収入が十分でなく、生活保護を要する世帯の増大もあり)、社会保障についての費用が増大することに繋がります。また、財源問題だけでなく、医療福祉分野の就業者不足も生むという現実も直視しなければなりません。一般企業の人手不足についても主張しているところですが、福祉分野にだけは潤沢な人材を確保できるという道理はないのです。極論すれば、自治体職員も十分に確保できず、各地域で社会システムの支え手が不足し、例えば、構築を目指すという「地域包括ケアシステム」も機能しないことになりかねないのです。

地域として、身の丈に合ったサービス水準で我慢することが必要になってくると言ってしまうのはソレまでですが、やれることは全部やって、現在の危機へ対処し、将来の危機へ備えなければ成らないと思えます。

この危機の中、医療や介護、行政サービスを維持しようと思えば、それらの効率を高める「集住」や、居住場所と病院などサービスを提供する機関を直接結ぶとかいう「スマートハウス」への移住も考えなければならないと思えます。市道や上水管を例に出してお話をよくするのですが、市道や導水管の先の人口(受益者)が半分になれば、サービス提供の為の一人あたり費用は、2倍になってしまうのです(同じ規格で整備したとして)。もちろん、施設の規模を見直すことは出来ますが、域内移住を誘導して集住等「住まい方」の改革まで考えなければならないような危機が訪れるのではないかと考えています。

また、介護職の就業者不足については、それをカバーする方法として、介護予防による要介護・要支援認定率を下げるのが最大の効果がある対策でしょう。5月に視察させて頂いた和光市で

は、15年前から全国に先駆けて実施してきた介護予防の効果が出て、要介護認定率は9%台です。介護予防についても、国の制度に拠るところが多く、市独自では施策を組みにくいのは確かですが、高齢化先進地であり、要介護認定率が全国の都道府県で最も高い大阪府の22.4%※2より高かった(28年度末で23.67%、29年度末で20.64%に改善※3)、県内でトップレベル(県内上位三位※4)に位置する宇和島であれば、なお積極的に取り組むべき課題であると思っています。

介護サービスの活用という、ご家族の「レスパイト」の機能が大きな要素のように思えますが、和光市の事例からも、酒向医師が院長を務めるねりま健育会病院や併設される介護老人保健施設ライフサポートねりまの視察をしても、改めて「自立支援や重度化防止」に注力すべきことが必要だと思いました。国の制度見直しの中でも、本年度の介護報酬改定では、利用者の日常生活動作を改善・維持させた場合や、リハビリ専門職との連携による重度化防止の取り組みに対して報酬が加算されるなどの改定が成されています。※5

「高齢者が転ぶからと車椅子に乗せ、むせるからとペースト食にする。」こんな介護サービスで作られた、廃用症候群や寝たきりは、自立支援を適切に行うことで、介護保険から卒業できたり、要介護度を維持して、家族と住み慣れた家で暮らすケースも作れるのです。先に紹介した、同級生の酒向医師は、攻めのリハビリを推進している医師ですが、宇和島では市立宇和島病院で同じく同級生の善家医師が上手く急性期の危機を脱出する治療が出来た場合であっても、回復期のリハビリと上手く連携できなければ、脳疾患に対する適切な施術によって取り戻せたはずの機能だけでなく、使わないことで身体機能が衰える廃用症候群でも、日常生活が取り戻せないということになるわけでありです。

回復期リハビリについての需給のバランスを検証し、圏域の医療機関の連携の中で、不足している機能があれば、市立の吉田病院や津島病院の空きスペースを活かして、酒向医師の提唱する「攻めのリハビリ」を宇和島地域で取り組み、要介護度の改善を目指すことも、医療機関の機能分担をすすめる上で重要な選択肢となるのではないのでしょうか。

介護費用の抑制が出来ます。また、身体能力の回復は、利用者本人・家族が望むところで在ります。

※1 2018年3月議会 保健福祉部長答弁

※2 大阪府における介護施策の現状と課題、対応の方向性について
大阪府高齢者保健福祉計画推進審議会 専門部会報告書

※3 宇和島市高齢者福祉課介護認定係による

※4 愛媛県 高齢者が住み慣れた地域で生き生きと暮らせる社会づくり
※5 厚生労働省 平成30年度介護報酬改定の主な事項について

議会報告

2018年9月議会で質問いたしました。

【1】 公の施設に係る指定管理者の指定手続について

1. 選定委員選任をどう変えるか
2. 配点・得点の集計方法をどう変えるか

【3】 子育て環境の整備について

1. 貧困の連鎖をどう断つか
2. 家庭・地域の教育力を高めるために何が必要なか

【5】 学校プールの整備について

1. 宇和島の学校プールの老朽化の程度は
2. 改修計画はどうなっているか
3. 「脱 1校1プール」について所見を

【7】 職員の職務倫理・服務規程について

1. ルールは設けているか
2. 倫理はどう守られているか

【2】 学力テスト成績向上の為に

1. 正解率を上げるノウハウ(向山型「国語B問題」指導法)の研修の効果はどうか
2. 学力テスト結果の更なる改善に向けて、ノウハウの利用を

【4】 バンブーバイオマス発電事業事業化に向けて

1. 耕作放棄は土砂崩れへどう影響したと分析するか
2. 竹の圃地への浸食は、土砂崩れにどう影響したか

【6】 障がい者雇用率偽装問題について

1. 不正の認識はあったか
2. 指示系統はどうなっていたか
3. 何をどう改善して、障がい者の働く場を作るか



【プロフィール】

昭和36年1月生まれ 愛媛県宇和島市出身
愛媛県立宇和島高等学校卒
岡山大学資源管理学研究室卒(学士)

昭和58年(株)加ト吉 営業本部/東京支店
宇和島漬物食品(株)常務取締役(現職)

1994年 (社)宇和島青年会議所 理事長
2000年 (社)日本青年会議所 愛媛ブロック会長
2001年 宇和島市補助金等検討委員会 委員長
2003年 宇和島市女性問題研究委員会 副委員長
2004-5年度 宇和島ロータリークラブ幹事
2013年 宇和島市議会議員

2015年 愛媛平成市議の会 事務局長
市議会産業建設委員会 副委員長
2016年 愛媛平成市議の会 監事
市議会教育環境委員会 副委員長
2017年 市議会厚生委員会 委員長(現職)
現職 宇和島トライアスロン協会 会長
現職 愛媛県トライアスロン協会 副会長
現職 NPO法人 移住への理解を求めの会 理事
現職 宇和島市商工会議所 議員
現職 宇和島法人会 監事
現職 宇和島市観光物産協会 理事

【趣味】マラソン・トライアスロン・家事・育児・読書



ふれあい子ども食堂 トキワバイクプロジェクト



タウンミーティング



トライアスロン堀川選手市長訪問



朝霧湖マラソン



ねりま健育会病院視察

あなたも「武田元介ニュースレター 黎明」の読者登録しませんか?~他人事でなく自分事~

読者登録していただきますと、「武田元介ニュースレター 黎明」を毎月(年4回の予定)お届けいたします。是非、下記までお申し込みください。

メール m_takeda@motosuke.net
FAX 0895-24-5610

皆さんの声を聞かせてください

ミニ集会・座談会お申し込み、少ない人数でもかまいません。武田元介が伺わせていただきます。

皆様で自主開催されるミニ集会や座談会に是非参加させていただけたらと思います。[ママ友が集まる会・近所やスポーツ仲間が集まる会]など、どんな会でもかまいません。是非伺わせていただいております。



ブログの更新やツイートのまとめなど、いろんな情報を発信しています。



時々つぶやいています。フォローお願いします。 @TakedaMotosuke

政策発信

<http://motosuketrd.blog.fc2.com/>